

TDU Agora

特集

令和7年度 学術振興基金イベント活動支援 1

CONTENTS

| | | | |
|-------------------|---|-------------------|---|
| TOPICS | 3 | News | 6 |
| 中学校・高等学校 | 4 | Information | 7 |
| キャンパスよもやま情報 | 5 | | |



特集

令和7年度
学術振興基金
イベント活動支援

学生団体の活動 への支援

学校法人東京電機大学学術振興基金
イベント活動支援では、海外または
全国規模のイベントへの参加など、
本学の広報ならびに
イメージアップにつながる活動をする団体に対し、
選考のうえ部品費・材料費を支援しています。
令和7年度は3団体が選ばれました。



TOKYO SENJU CAMPUS

東京電機大学 FCV・EVプロジェクト

01

ワールド・グリーン・チャレンジ・ソーラーカー・ラリー

2025年8月9日～8月12日

秋田県大潟村「大潟村ソーラースポーツライン」

グリーンラリー 第2位

グリーンフリートチャレンジ 第3位

ソーラーカー、燃料電池車、電気自動車などのクリーン・エネルギーを使ったエコを競う自動車の大会であり、世界三大ソーラーカーレースの一つ。ソーラーエネルギーの有効性・可能性を広く全国・全世界に発信及び環境・エネルギー問題への関心を高めると共に、次代を担うエンジニアに技術実験の場を提供している。参加する学生および社会人等はチーム単位でオリジナルの車両を製作し、3日間の走行距離および技術の独自性を競う。



大会3日間の総走行距離150kmを目指し、技術の独自性を評価するプレゼンテーションで高得点を狙い、総合得点から部門別での上位入賞を目標とした。今回は新しいトランスミッションへ新設計の変速プログラムを搭載し、大会初の自動変速機を搭載した電気自動車としてプレゼンに臨んだ。グリーンフリートチャレンジ 第3位に加え、周回数とラップタイムについて評価されるグリーンラリー競技で全出場チーム中2位という成績を収めることができた。

TDU Team Dauntless Uncharted

ARLISS2025

(A Rocket Launch for International Student Satellites)

2025年9月8日～9月12日

アメリカ合衆国ネバダ州 ブラックロック砂漠

Best Mission Award 2位 Technical System Award 3位

学生が自作したCanSat (カンサット: 缶サイズの模擬人工衛星や探査機) をロケットで打ち上げ、その技術力とミッション達成度を競う、国際的な実践教育コンペティション。各チームのCanSatは、主催者が用意した大型ロケットに搭載されて上空約4,000mまで運ばれ、空中で放出される。放出後パラシュート等で降下し、搭載されたセンサーによる科学データの取得や、地上を走るローバーがGPSを頼りに指定地点へ自律的に帰還する (Come-Back 競技) ミッションの達成度を競い合う。



Come-Back 競技 (指定地点への帰還ミッション) において、2機のローバーが相互に連携する独自の「親子式 (分離・連携型) システム」を開発し、目標地点への高精度な自律帰還を達成することを目標とした。ミッションの優位性や実現可能性、独自性が評価され【Best Mission Award】では2位、システム技術の新規性と難易度の高さが評価される【Technical System Award】では3位となる好成績を収めた。

TDUブリコンサークル

Japan Steel Bridge Competition 2025

(日本鋼橋模型製作大会 2025)

2025年9月4日～9月6日

愛知県名古屋市 名古屋大学東山キャンパス

総合13位

学生自身が鋼橋の模型を設計・製作・架設し、その完成度を競い合う全国規模の技術コンペティション。橋の強さや美しさ、組み立ての速さ、プレゼン力など多面的に評価される。1月から大会本番(9月)までの数ヶ月にわたって設計・製作を進め、大会は①架設部門②構造部門③美観部門④総合部門の4部門で構成され、それぞれにおいて審査・表彰が行われる。



構造的な合理性と意匠的な美しさを両立させ、見る人に印象を与えるような地域性・テーマ性を反映した設計に取り組んだ。開催地である名古屋にちなんで「日ノ出岩」から着想を得て、自然の美しさを橋梁に表現することを目指した。また、構造強度を高めるため、各部材を極力分解せずに一体化した。載荷試験では良好な結果を得ることができたが、架設試験では結束箇所が多さにより時間超過となった。

CySecが「日本セキュリティ大賞2025」を受賞



11月13日、「日本セキュリティ大賞2025 サミット&アワード」が開催され、本学の「国際化サイバーセキュリティ学特別コース (CySec)」が、日本セキュリティ大賞2025 セキュリティ人材育成部門 大賞を受賞しました。このアワードは、優れたセキュリティガバナンスや人材育成などを構築・実践している組織の知見を広く社会に共有し、日本全体のセキュリティレベル向上に貢献することを目的としています。

CySecは、国際的なCBK^(※)を基盤とした体系的かつ実践的なカリキュラムを構築し、500名以上の人材を輩出した実績が高く評価されました。さらにシンポジウム等を通じて研究成果を社会へ積極的に発信する姿勢も、本部門の大賞にふさわしいものと評価されました。

(※) Common Body of Knowledge セキュリティ分野におけるグローバルレベルの共通知識、ベストプラクティスを網羅したもの

CySecは高度サイバーセキュリティ人材の育成をミッションとし、東京電機大学の特色ある取り組みの一つとして昨年10周年の節目を迎えました。そしてこの度、日本セキュリティ大賞を受賞し、これまでの活動が社会から高く評価されたことを大変光栄に思います。

CySecという名の下、学び続けるための場を様々な形で提供し、継続すること。これが、今回の受賞につながったと思います。また、授賞式当日には、会場まで多忙な現役社会人受講生が応援に駆けつけてくれるなど、CySecコミュニティの広がりを感じました。CySecの主役は学修生、現役受講生です。東京電機大学は、今後もその活動を支援し、高度サイバーセキュリティ人材の育成を推進します。



未来科学部 情報メディア学科
寺田 真敏 教授 (CySec責任者)



授賞式での寺田真敏教授(中央)と千葉堯助教(右)

国際化サイバーセキュリティ学特別コース

東京電機大学が社会人向けに開講する履修証明プログラム

サイバーセキュリティ(以下CyS)のより一層の充実、社会を安心・安全・豊かにするための喫緊の課題です。本プログラムは、そのような社会ニーズに応えるべく、社会人向けにCyS意識の高揚を先導する、高度CyS専門家を養成します。

<https://cysec.dendai.ac.jp/>



「知事と議論する会 ～都知事！わたし、東京をこう変えたいです！～」登壇



12月25日、東京都主催「知事と議論する会～都知事！わたし、東京をこう変えたいです！～」が開催され、本校から高校2年生の関口颯英さんが登壇しました。

今年度のテーマは「AIなどのデジタルで叶えたい『未来の東京』」。関口さんは、ゲリラ豪雨の増加により深刻化する内水氾濫の問題を取り上げ、「浸水と雨のデータを集めて浸水を予測する」AIシステム AREA RAINを用いた新たな防災のかたちを提案しました。

降雨量や地形、過去の浸水履歴などをAIに学習させ、危険度を地図上に可視化して住民や行政にいち早く知らせるという構想です。さらに、バスの走行映像や道路に設置されたセンサーとも連携させることで、発生後の冠水状況をリアルタイムに把握し、通行規制や避難誘導に生かすアイデアも示しました。小池都知事からの「そのピンク色の検知器はどういう仕組みなのか」という質問に、関口さんが理路整然と自らの言葉で説明すると、会場から大きな拍手が送られました。

発表後のディスカッションでは、他校の高校生やコメンテーターからも多くの質問が寄せられ、都市インフラの老朽化や気候変動への対応など、議論は幅広いテーマへと発展しました。関口さんは、本校での探究活動で培ったリサーチ力やプレゼンテーション力を生かし、自分の考えをわかりやすく伝えていました。

今回の経験は、AI時代の学びの在り方や、若い世代が行政と協働して未来を形づくる可能性について考える貴重な機会となりました。また、本校で継続して取り組んできたアントレプレナーシップ教育の一つの成果とも言えます。本校では、今後も生徒達の発表の場への挑戦を積極的に後押ししていきます。



本学総合研究所 小林亘教授開発のAREA RAIN



小池都知事からの質問に答える関口さん



学生同士のクロストーク

東京千住キャンパス

人間科学プロジェクト「シン・STEAM教育の探究」ワークショップ

12月16日に、東京電機大学 人間科学プロジェクト「シン・STEAM教育の探究」チームが主催するワークショップを開催しました。

このプロジェクトは未来科学部 人文・社会系 木場裕紀准教授の授業の一環で、STEAM教育の観点から学生がワークショップを企画し、受講者の知的好奇心や探究心を高め、大学での学びや大学生活についてのレクチャーおよび質疑を通して、将来に対する意識の向上を目指すものです。

今回は、「教科の垣根を超えて…楽しみながら 学んでみよう！」をテーマに学生が講師となり2つのワークショップを開催しました。

- ◆「伝わる?? ひねってつなげる！ マジックスネーク・チャレンジ!!」
- ◆「光でうつる!? 作ってみよう！ 手作り！ ふしぎカメラワークショップ!!」

当日は、近隣の小学校の4～6年生たちが受講生として参加。児童からは「ものづくりに興味があって参加した。色々な複雑な形を作れて楽しかった」、「レンズがなくてもカメラを作れることや、光の性質など知らないことを学べて楽しかった」、「次はまた別のことを学びたい」という声がありました。 (未来科学部 木場)



埼玉鳩山キャンパス 理工学部長と話そう！



11月17日、埼玉鳩山キャンパス本館2階プレゼンテーションホールにて、理工学部長と学生の対話企画「理工学部長と話そう！」を開催しました。当日は学年や学系の垣根を越え51名の学生が参加し、クラブ活動や学食をはじめとした学生生活について活発な議論が展開されました。

理工学部長が学生の生の声を直接聞く貴重な機会となり、学生からは具体的かつ建設的なアイデアが多数寄せられました。今後もこうした対話の場を大切に、学生と共に進化する理工学部を目指してまいります。

(理工学部事務部 野中)

校友会だより



大学同窓会 校外交歓会(栃木県)

12月6日～7日に、大学同窓会主催の校外交歓会を栃木県で開催しました。参加者は16名で、東京千住キャンパスから貸切バスで出発し、初日は大谷資料館や、伝統的な「佐瀬式」による酒造りを続ける片山酒造を見学しました。同酒造からは栃木県支部の高松支部長にも合流いただきました。宿泊先のホテル鬼怒川御苑では懇親会を行い、二日目は観光ガイド付きで日光東照宮を参拝するなど、親睦を深める有意義な交歓会となりました。



ピックアップ! 出版局



★出版局より、新刊の紹介や話題の本、イベントなどのホットな情報を掲載！

<今月の一冊！>

“特許を積極的に取ってもらいたい!”というコンセプトのもと製作！



特許を取ろう！——技術者・研究者へ贈るコツとテクニック

宮保憲治・岡田賢治 著 ISBN:978-4-501-63080-5 A5判・168頁 定価2,200円

特許を取るために必要な基礎知識に加え、役に立つ特許検索の方法や活用法もまとめた。一部改正した特許法にも対応。

<重版決定本のご紹介！>



新入生のための電気工学

東京電機大学 編 ISBN:978-4-501-11360-5 A5判・176頁 定価2,200円

電気を学ぶ上で必要な事項について、初学者向けに解説。見開きで一項目を解説。



無線従事者試験のための数学基礎 第2版

加藤昌弘 著 ISBN:978-4-501-33250-1 A5判・176頁 定価2,420円

無線従事者国家試験の上級資格の計算問題を丁寧に解説。第2部では多くの計算問題を掲載。



イラストで学ぶ看護人間工学

小川鑛一 著 ISBN:978-4-501-41640-9 B5判・216頁 定価3,300円

看護における人間工学について、初学者向けにイラストを多く用いてやさしく解説。

★出版局ではメールマガジンを配信しております。ご希望の方は、下記 URL よりご登録ください！
<https://web.tdupress.jp/mailmagazine/>



偉人の履歴書 vol.31

「好きなもの いちご 珈琲 花 美人 懐手して宇宙見物」

「天災は忘れた頃にやってくる」で知られる物理学者、随筆家

寺田寅彦

Terada Torahiko ● 1878-1935

- | | |
|----------------|---|
| 1878 (明治 11) 年 | 東京・麹町に生まれる。 |
| 1896 (明治 29) 年 | 熊本の旧制第五高等学校 (現在の熊本大学) 入学。夏目漱石、田丸卓郎の教えるを受ける。 |
| 1899 (明治 32) 年 | 東京帝国大学理科大学物理学科入学。 |
| 1904 (明治 37) 年 | 26歳の頃、東京帝国大学理科大学の講師になる。音響学、磁力学を研究。 |
| 1913 (大正 2) 年 | ラウエ斑点を撮影する研究を始める。後の1917 (大正 7) 年にこの研究で帝国学士院恩賜賞受賞。 |
| 1916 (大正 5) 年 | 東京帝国大学理科大学教授に任命される。夏目漱石逝去。全集の編集委員となる。 |
| 1923 (大正 12) 年 | 関東大震災。震災調査に従事。防災科学に取り組むきっかけとなる。 |
| 1925 (大正 14) 年 | 東京帝国大学に地震研究所設置。教授となる。随筆家の出版あいつぐ。 |
| 1935 (昭和 10) 年 | 57歳で逝去。 |

東京電機大学編『偉人たちの挑戦2』東京電機大学出版局、2022年、p195。イラスト:宮島幸次

今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

忙しなく働く老母除夜の鐘
 滴りて氷融けゆく軒端かな
 夫婦して花苗植える小春かな

英次(武田英次)
 廼子(大園成夫)
 七美男(松田七美男)

Information

令和7年度 第2回CRCフォーラム

「災害現場での活動を支援するテクノロジーとの連携」を開催

災害現場での多職種連携を実現するエッジデバイスと情報プラットフォームの連携とは？

～2月9日(月)／東京千住キャンパス／参加費無料／定員200名(先着順)～

本フォーラムでは、本国での激甚災害における現場からの情報収集とDX化、多職種にわたる組織間での情報共有を効率的に行うためのプラットフォーム等に関する講演と総合討論を行います。



■ 講演概要(予定) https://www.dendai.ac.jp/crc/about/forum/crc_forum27.html

日時 2026年2月9日(月) 14:00～16:00

会場 東京電機大学 東京千住キャンパス1号館2階1204-6教室
(東京都足立区千住旭町5番 ※北千住駅東口(電大口)徒歩1分)

対象 関連企業の方、学生ほか、災害現場支援に携わっている方、情報収集/共有、DX化等に関心のある学外の方など

定員 200名(先着順)

参加費 無料

お申し込み方法 右記URLよりお申し込み <https://forms.gle/Kp9ciFHNy7TCnthF7>
*お申し込み締め切り:2月6日(金)12:00

お問い合わせ先 東京電機大学 研究推進社会連携センター 研究推進担当
電話:03-5284-5230 / E-mail:kenkyu-k@jim.dendai.ac.jp



「CRCフォーラム」について

東京電機大学 研究推進社会連携センター(通称CRC)は、本学において最先端技術の研究開発の中核を担う組織です。研究者の集結による本学発の研究グループの創設を目指している「CRCフォーラム」は、本学教員等の幅広い分野にわたる研究成果の一端をご紹介します機会でもあり、毎年度2回程度開催しています。

編集後記

受験シーズンが到来しました。受験は、自分の目標に向かって努力を続ける、成長や挑戦の機会です。これまでの成果を思う存分発揮してください。頑張る受験生たちが、ベストな状態で最高のパフォーマンスができるよう祈っています。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail:soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。